

MRI・CT 遠隔読影診断のご利用案内

昨年12月より始めております遠隔読影のご利用方法をお知らせ致します。読影までご希望される場合は、専門医の読影による診断結果を当日もしくは翌日13時までにご報告出来るようになっております。

単純撮影に限りますが、胸部異常陰影の精査、脳血管障害を疑われた時、外傷の精査などその他該当される患者様がいらっしゃいましたら是非ご利用下さい。

◎検査受託との違い◎

- ・専門医による読影を依頼する為、**カルテを作成・紹介状が必要**となります。[待ち時間の少ないよう対応致します]
- ・検査後は患者様にフィルムもしくはCD-ROMをお持ちいただき、**紹介元の先生より結果説明を受けて頂きます。**

診断結果は先生のご希望に合わせて当日中（撮影後2時間以内）もしくは翌日13時まで地域連携室よりFAXにてご報告させていただきます。 ※外来受診後検査を行いますので保険請求は当院にて行ないます

《医療総合支援部 地域連携室スタッフ》

(医療総合支援部長 副院長兼務)	遠藤 公人
(内科診療部長 兼務)	原 右
(地域連携室長 外来・健診センター師長併任)	開沼 美由紀
(地域連携室副看護師長)	澤村 弘美
(医療社会事業専門員)	加藤 弘江
(医療社会事業専門員)	大庭 郁美
(地域連携室事務員)	佐藤 桂子
(医事課係長 兼務)	小田島 善広
(医事課課員 兼務)	飯島 恒

発行：独立行政法人 地域医療機能推進機構

仙台市太白区中田町字前沖 143 番 (代表) TEL 022-306-1711 FAX 022-306-1712
地域連携室 (直通) TEL022-306-1740 FAX022-306-1741

E-mail:renkei@sendaiminami.jcho.go.jp



[病院の理念]

本院は、地域社会における中核的な先進医療保健施設として、地域医療の充実と国民保健の向上に貢献します。

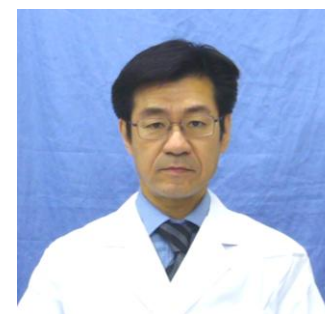
[病院の基本方針]

1. 急性期医療を担う地域の中核病院として、安全かつ良質な医療を行うために適切な説明と同意に基づいたチーム医療を推進します。
2. 地域の医療・介護福祉施設と連携を図りながら高齢者にも対応できる幅広い医療を提供します。
3. 個人情報厳格に保護し、診療内容に関しては真実説明で対応します。
4. 全職員が自己研鑽に励みながら一丸となって地域医療に取り組みます。



就任の挨拶

あさくら とおる
院長 朝倉 徹



このたび石井前院長の後任として、赴任いたしました朝倉と申します。前任地の石巻赤十字病院では震災後の医療復興のために様々な努力をして参りましたが、当地域も甚大な津波被害を受けた被災地であり、石巻と共通した点があると思われま。

名取、南仙台地区には総合病院が存在せず、仙台中心部まで紹介しなければならぬ患者さんも少なくないとは思いますが、当院は気軽にいつでも紹介できる地域連携の拠点病院としてその期待があるものと自覚しております。昨年度から地域医療機能推進機構 JCHO として再出発をすることになりましたが、秋口には急性期病床から慢性期、介護施設、在宅医療への橋渡しの位置づけとして地域包括ケア病棟を設置しました。今後高齢化が加速する中、継ぎ目のない医療連携を早急に構築することが必要です。

微力ではありますが、今後地域のニーズに答えるべく皆様のご意見を伺いながら地域医療に貢献できれば幸甚です。





就任の挨拶

すずき さき
看護部長 鈴木 佐紀

花の便りが各地から届くこの頃、地域連携の各関係者の皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また平素は、当院の運営にご理解とご支援をいただきますことに感謝申し上げます。私はこの4月1日付けで就任いたしました鈴木佐紀と申します。

JCHO 仙台病院より異動してまいりました。同グループの組織内異動ではありますが、勝手の違いからただただあたふたしているような様で、役不足といったところであります。皆様方にご指導ご鞭撻頂戴できれば幸いです。

心構えといたしては、JCHO の目指すところである「地域医療における医療連携・地域医療支援の取組」地域住民の皆様が安心して暮らせる地域づくりに、看護部がどのように貢献していけば良いのかを考え、行動し、人材を育成して参りたいとの思いであります。看護実践能力及びマネジメント能力をもち、医師などの他職種との協働によりチーム医療を積極的に提供できる看護師の育成を行い、また、病院、介護老人保健施設の任務にあたるとともに質の維持向上に努めてまいります。

とは言え、「明るく・楽しく」をモットーに仕事ができるよう励んでまいります。何卒宜しくお願いいたします。

就任の挨拶

むらかみ よしひろ
事務部長 村上 良弘

4月より独立行政法人国立病院機構宮城病院から異動して参りました。これまで国立病院機構の病院等で培った経験を生かして病院運営に努めて参りたいと考えております。

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)は、地域医療、地域包括ケアの要として超高齢化社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えることを使命としております。

当院は、JCHOに移行して2年目になります。地域の先生方や地域住民の皆様により頼りにされる病院を目指しておりますので、今後ともご支援・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

医療総合支援部長就任のご挨拶

えんどう こうじん
副院長 遠藤 公人

先生方には日頃よりたくさんの患者さんをご紹介頂き、心より御礼申し上げます。

今年度より医療総合支援部長を拝命しました。宜しくお願い申し上げます。

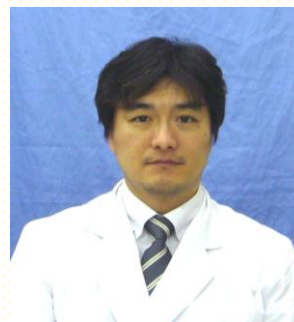
さて、地域連携の構築にあたり、昨年より2つの試みを開始しております。一つ目は、開業の先生方に当院の検査モダリティを活用して頂くべくCT・MRI・超音波検査の共同利用が開始されております。患者さんの待ち時間を極力少なくするようご案内いたします。また、至急読影も可能ですので、お気軽にご利用ください。二つ目として、昨年10月から地域包括ケア病棟の運用を開始しました。大手術や集中治療などの超急性期治療を乗り越えた患者さんにリハビリなどの「post acute」の医療を提供したり、在宅の患者さんの軽症・中等症を治療する病棟です。治療の長期化による筋力の回復遅延、在宅環境の未整備による入院期間の長期化を克服するため、この病棟ではリハビリスタッフ、看護師、ソーシャルワーカーなどの多職種と話し合いながら患者さんにあつた方策を提案実行することに

より、自宅や施設への退院までをスムーズに進めることが可能となりました。超高齢者や、多くの合併症を抱えているなどで早期退院が困難な患者さんに対し、この地域で提供できる医療サービスの選択肢が一つ増えたのではないのでしょうか。

昨年より当院は新しい独立行政法人、地域医療機能推進機構のもと病院運営を進めて参りましたが、その機構の掲げる使命の中心が、地域密着型の医療を充実させること、すなわち、地域医療・地域包括ケアの要となり、地域住民の生活を支えることとあります。開業の先生方をはじめ、近隣病院の先生方との信頼関係あつての地域医療ですので、それをさらに強固なものにすべく、柔軟な受け入れと迅速な対応に尽力する所存です。気軽に電話できる連携室をモットーにしておりますので、至らぬ点も含め何なりと御一報ください。

なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

新任医師紹介



外科医師

やぶうちしんいち
藪内 伸一

4月1日付けで、外科に着任致しました藪内伸一と申します。

平成11年に東北大学を卒業後、東北大学消化器外科教室に入局しました。

消化器外科、一般外科、災害医療などを専門に取り組んでまいりました。

心ある、より良い医療を提供し、地域のみなさまに貢献できるよう精進いたします。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

<資格>

日本外科学会 専門医・認定医

日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

厚生労働省 日本DMAT 隊員

JATEC インストラクター

ICD 制度協議会 ICD (インフェクションコントロールドクター)

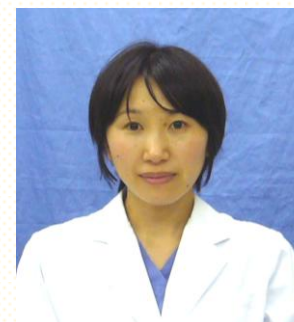
臨床研修指導医

医学博士

東北大学大学院非常勤講師

<所属学会>

日本肝胆膵外科学会、日本救急医学会、米国癌学会(AACR)



内科医師

みやざわてるこ
宮澤 輝子

4月より東北大学病院消化器内科から赴任となりました宮澤です。

岩手県で研修後、大学では消化器内科の下部消化管疾患を勉強して参りました。

地域の皆様にご貢献できるよう頑張りたいと存じます。何卒よろしくお願い致します。

致します。

<資格、所属学会>

認定内科医、日本内科学会、日本消化器病学会、日本内視鏡学会



退職医師のお知らせ 5月7日付 循環器科：花立 安志